

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023 年 3 月 3 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 — 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	山本 吉士郎	経営	H1201029
	②	岡崎 圭子	福祉	H0902004
	③	萩原 康子	福祉	H1801071
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	たかはま保育園			
事業所連絡先	〒	108-0075		
	所在地	東京都港区港南4丁目3番7号		
	TEL	03-5781-0255		
事業所代表者氏名	園長 三野 久美子			
契約日	2022 年 8 月 3 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022 年 9 月 22 日			
利用者調査結果報告日	2022 年 11 月 24 日			
自己評価の調査票配付日	2022 年 9 月 5 日			
自己評価結果報告日	2022 年 11 月 24 日			
訪問調査日	2022 年 12 月 2 日			
評価合議日	2022 年 12 月 2 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者(保護者対象)調査は、アンケート用紙と第三者評価の目的や主旨、問い合わせ等を説明した文書をつけて、事業所から手渡しで配布をした。記入後は返信用封筒に入れ、評価機関へ郵送してもらった。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023 年 3 月 3 日

事業者代表者氏名 園長 三野 久美子

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	1)日本保育サービスの運営理念 ●安全＆安心を第一に保育・育成を実施します ●いつまでも思い出に残る施設となるよう日々の保育を大切にします ●職員が楽しく働けることで子どもたちを笑顔にします ●地域とつながり支え合う施設として社会に貢献します ●常に時代が求める子育て支援を実践し続けます 2)日本保育サービスの保育理念「未来(あす)を生きる力を培う」 自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います 3)日本保育サービスの3つの保育方針 ●自ら伸びようとする力を支えます ●五感を養って感性を豊かにします ●後伸びする力を育みます 4)園の保育方針 ●生活する力 ●関わる力 ●発見、考え、表現する力 5)園目標「たかはま3つの心」 ●認め合い、思いやる心(関わる力) ●自分を信じてやりとげようとする心(生活する力) ●あそびこむ豊かな心(発見、考え、表現する力)
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 職員目標 ①子どもと遊びこめる職員(意欲) ②子どもの気持ち、個性を大切にする職員(心情) ③子どもの鏡となる職員(態度) ④子どものために何事にも挑戦して取り組む職員(心情・意欲・態度) ⑤保護者、地域において信頼される職員 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・保育士としての倫理観を持ち、子どものための最善の利益を考えられる保育士 ・日頃から、探求心を持って仕事を行っていきながら学ぶ楽しさを感じられる保育士 ・自分の言動に対して責任を持ち、相手に対しても思いやりを持つことができる保育士

調査対象

全園児世帯の保護者を対象とした。
複数の在園児がいる場合は、最年少の子どもに対しての回答をお願いした。

調査方法

園から調査票を配布してもらい、記入後は返信用封筒に入れ、評価機関へ直接返送してもらった。

利用者総数

150

利用者家族総数(世帯)

124

共通評価項目による調査対象者数

124

共通評価項目による調査の有効回答者数

82

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

66.1

利用者調査全体のコメント

調査対象者124世帯中82世帯から回答を得ることができた。満足度の高い項目として、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになってきているか」「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」「施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。
総合的な満足度では、77名が「大変満足、満足」、2名が「どちらともいえない」、2名が「不満、大変不満」と回答している。また、「先生方が責任感を持って子どもを見てくれるので安心して預けられています」「担任以外の先生も子どもの名前を覚えて声をかけてくれ、良い雰囲気です」「急な保育時間の変更にも柔軟に対応してくれます」「英語やリトミック、食育などにも力を入れていて、子どもも関心を持っています」「コロナ禍ですが、そろそろ行事や参観人数など見直してほしいです」「アプリが導入されて便利になったので、欠席連絡などもデジタル化をお願いしたいです」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	81	0	0	1
81名が「はい」と回答し、「どちらともいえない」「いいえ」の回答は見られなかった。 「多くのお友達や先生方と関わって刺激になっています」「毎日様々なカリキュラムがあり大変ありがたいです」「身体を使った遊びなどが心身の発達に役立っています」「体操やダンス等身体を動かす活動が多いのが良いと思います」「保育園に入ってからできることが増えました」などのコメントがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになってきているか	77	4	0	1
77名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「毎日違う遊びや体験をさせてくれます」「運動や歌、アートなどいろいろな体験ができています」「家ではできない製作や水遊びなどを楽しんでいるようです」「保育園での出来事を楽しそうに話してくれます」「興味や関心の度合いがわからないので幅広く実施して欲しいです」などのコメントがあがっている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	76	6	0	0
76名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「栄養もあっておいしい食事をいつもいただいています」「献立も工夫されていて食育もしてくれています」「偏食ですが園ではバランス良く食べられているのでありがたいです」「以前はできたおかわりをまた復活させて欲しいです」「お魚がもっと多いと嬉しいです」などのコメントがあがっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	66	15	1	0
66名が「はい」、15名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「テラスや園庭で過ごす時間も多いです」「コロナで機会は減りましたが出来る範囲でやってくれていると思います」「植物を見たり触れたり、普段はさせてやれないのでありがたいです」「もっと外遊びがあると嬉しいです」「公園や園庭だけでなく区の施設や自然をたくさん体験できる機会が増えると良いと思います」などのコメントがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	59	4	2	17
59名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「当日電話すれば延長してもらえるのでとても助かっています」「急な残業になったときも、いつも嫌な顔せずに対応してくれます」「まだ利用したことがありません」などのコメントがあがっている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	65	13	3	1
65名が「はい」、13名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 「安心して預けられています」「先生方は最大限対応してくれていますが、人数の関係で目が行き届いていないと感じることもあります」「どのような対策が取られているのかを知りません」などのコメントがあがっている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	72	7	2	1
72名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「日程は参加しやすいです」「基本的に土日に設定されているのでありがたいです」「保護者の参加人数を二人にして頂けると嬉しいです」などのコメントがあがっている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	68	10	3	1
68名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 「いつも真摯に対応してくれています」「いろいろと密にコミュニケーションをとってくれます」「時間帯によってはお話しする十分な時間が取れないこともあります」などのコメントがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	76	4	1	1
76名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「いつもきれいです」「おもちゃも清潔にされています」「手洗い場に石鹸がないことがあります」などのコメントがあがっている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	68	10	3	1
68名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 「いつも優しく接してくれています」「先生方は常に丁寧に対応してくれます」「人によります」などのコメントがあがっている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	75	4	1	2
75名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「とても信頼できます」「発熱時などは電話連絡で頻繁に検温や観察をした詳細を教えてください」などのコメントがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	49	13	2	18
49名が「はい」、13名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「まず話を聞いてくれます」「けんかをした時は仲直りまでしてくれています」「まだけんかをしたことはありません」などのコメントがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	75	4	2	1
75名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「とても良く対応してくれています」「先生により差はあります」「保育中の状況はわかりません」などのコメントがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	68	5	1	8
68名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「写真を掲載するときには毎回確認してくれます」「個人的なことは別室で話すなどの配慮をお願いしたいです」などのコメントがあがっている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	65	13	3	1
65名が「はい」、13名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 「お迎え時にいつも一言伝えてくれます」「園だよりに保育内容が記載されています」「保育日誌だけでなく口頭でもその日のエピソードなどを伝えてくれます」「毎日その日の様子が写真で掲載されています」「もう少し頻繁に保育内容を発信して欲しいです」などのコメントがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	68	8	3	3
68名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 「お願いや相談には対応してくれます」「他愛のない質問でもしっかり答えてくれます」「担任以外の先生に情報共有されていないと感じることがありました」などのコメントがあがっている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	27	24	10	21
27名が「はい」、24名が「どちらともいえない」、10名が「いいえ」と回答している。 「そういう機会はないですが、コミュニケーションは取れていると思います」「聞いたことはありません」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリ1～5、7）

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
	7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
○非該当		
○非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
○非該当		
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
○非該当		
○非該当		
○非該当		
カテゴリ1の講評		
「年度活動計画」の冊子を配布して方針・理念・目標を説明し、共有している 港区立たかはま保育園は㈱日本保育サービスが指定管理者となって運営をしている。園目標「たかはま3つの心」を定めて日々の業務を行っている。入社時の研修で、会社(以下本部)の運営理念、保育理念、方針等を動画や冊子によって学んでいる。また、年度当初の職員会議で、「たかはま保育園年度活動計画」の冊子を全職員に配布して、説明し、内容を共有している。保護者には入園時に配布する「入園のしおり」によって、港区の保育方針と合わせて園の考え方を説明している。同時に、ホームページ、園だより、園内の掲示等を使用している。 園長は園の管理責任者(施設長)として組織を統括して、役割を発揮している 園長は、港区及び本部の方針を実践するため職員の先頭に立ってその役割を発揮している。職員配置や職務分担の決定、安全管理や年度計画の推進及び保護者の支援、地域との交流、港区所管部署での会議への参加等多岐にわたる役割を担っている。また、職員の資質向上への取り組みとして、個々の希望や特性を把握して、本部と連携して計画的な育成方針を作成し、実施している。さらに、本部からの情報伝達の仕組み、社内掲示板を使って迅速な情報展開を行っている。また、エリア担当者は本部と園の連携のためきめ細かいサポートをしている。 組織での案件の決定手順は「保育園業務マニュアル」によって定められている 決裁する権限は役職ごとに決められており、案件によっては、本部に上げて、判断を仰ぐ場合もある。決定事項は社内掲示板或いは定期的な園長会議を通じて伝達されている。また、園内の重要な案件はリーダー会議で起案し、職員会議で周知している。同様に港区からの通知も園長がリーダー会議を通じて、職員や場合によっては保護者に知らせている。その際に決定に至った背景についても説明している。利用者(保護者)に関わる案件は、配信、手紙や掲示及び、個人面談を通じて伝えている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
カテゴリ2の講評 保護者の要望及び職員の意向、地区の状況を知って、園運営の参考にしている 保護者の要望を知るため、行事前後のアンケート、登降園時の会話等を利用している。得られた内容を把握、分析してニーズとして捉えるよう努めている。職員の意向は、リーダー会議で園運営について話し合い、対応すべき課題を抽出している。また、地区の子どもの福祉の現状は、区立園長会ほかの定期的な会議に出席して情報を収集している。園で実施する「保育園であそぼう」に来訪した地域の親子や園児学童からの情報も参考にしている。 年度事業計画は前年度の検証を踏まえて作成し、園運営の基本としている 園では3年の中期計画、5年の長期計画を策定して、単年度の事業計画に結びつけている。計画の作成にあたり、前年度の検証結果を総括して作成している。本計画は事業運営の基本をなすものとして、運営計画、実施状況ほか給食、健康管理の実施状況等を表明している。また、全体的な計画や入園のしおりの改訂も行い、防災訓練計画や年間行事計画の実行案を担当者が作成して、必要予算や職員の負荷を検討の上職員会議で決定している。計画類の進捗管理は、リーダー会議、職員会議の議題に上げて認識を共有している。 指導計画は全体的な計画に基づいて作成し、年度途中で実行の確認をしている 指導計画は全体的な計画を踏まえて作成している。計画の作成に当たって、各クラス担当が中心となり、子どもたちの実態の把握と発達に即した内容を盛り込んで案を作成している。これらを、リーダー会議で充分に検討の上職員会議において周知している。また、期、月、週単位で着実な実行を確認している。計画類は、新たな環境変化等に対応して見直しや、修正をして目標達成に取り組んでいる。但し、コロナ禍による行事等の見直しの影響を受けて、当初の計画に変更はあったが、職員の創意工夫によって、目標の達成に努めた。			カテゴリ2の講評 保護者の要望及び職員の意向、地区の状況を知って、園運営の参考にしている 保護者の要望を知るため、行事前後のアンケート、登降園時の会話等を利用している。得られた内容を把握、分析してニーズとして捉えるよう努めている。職員の意向は、リーダー会議で園運営について話し合い、対応すべき課題を抽出している。また、地区の子どもの福祉の現状は、区立園長会ほかの定期的な会議に出席して情報を収集している。園で実施する「保育園であそぼう」に来訪した地域の親子や園児学童からの情報も参考にしている。 年度事業計画は前年度の検証を踏まえて作成し、園運営の基本としている 園では3年の中期計画、5年の長期計画を策定して、単年度の事業計画に結びつけている。計画の作成にあたり、前年度の検証結果を総括して作成している。本計画は事業運営の基本をなすものとして、運営計画、実施状況ほか給食、健康管理の実施状況等を表明している。また、全体的な計画や入園のしおりの改訂も行い、防災訓練計画や年間行事計画の実行案を担当者が作成して、必要予算や職員の負荷を検討の上職員会議で決定している。計画類の進捗管理は、リーダー会議、職員会議の議題に上げて認識を共有している。 指導計画は全体的な計画に基づいて作成し、年度途中で実行の確認をしている 指導計画は全体的な計画を踏まえて作成している。計画の作成に当たって、各クラス担当が中心となり、子どもたちの実態の把握と発達に即した内容を盛り込んで案を作成している。これらを、リーダー会議で充分に検討の上職員会議において周知している。また、期、月、週単位で着実な実行を確認している。計画類は、新たな環境変化等に対応して見直しや、修正をして目標達成に取り組んでいる。但し、コロナ禍による行事等の見直しの影響を受けて、当初の計画に変更はあったが、職員の創意工夫によって、目標の達成に努めた。

カテゴリ3			
3 経営における社会的責任			
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

	カテゴリー3の講評
	職員は倫理・規範意識を高めた上で、保育に従事している 職員の法令順守の姿勢は保育園業務マニュアル、就業規則、保育園運営規定の理解によって進められている。そのため、新入社員は入社時のオリエンテーションによって説明を受けている。また、職員全員が継続的にコンプライアンスに関する、動画を視聴して意識を高めている。さらに、年2回評価シートによって自己査定を行って意識の向上を確認している。さらに、本部より発信される月1回の「保育安全テスト」を実施して結果の数値化によって理解度を確認している。 当園ではできる限り保護者からの意見・要望・苦情を把握した、園の運営を目指している 保護者から意見・要望・苦情を受けるための窓口は「入園のしおり(兼重要事項説明書)」に記載し園内、本部及び区の各総合支所及び保育課の連絡先を明示している。特に、本部内に「苦情相談窓口(専用ダイヤル)」を開設して苦情に関して真摯に受け止める体制になっている。また、園内に「ご意見箱」を設置している。苦情を受けた場合は、園内での情報伝達は定められた手順で、全職員が対応できるようにしている。同時に、クレーム受理票の記入によって、解決までの流れの検証や原因究明、再発防止に役立てている。 地域の子育て家庭の支援やネットワークとの交流を行っている 園見学に訪れた、地域の子育て家庭の方々に、子どもの健康や食事の相談に対応している。また、「保育園であそぼう」では手遊びを一緒に行ったり、園児が歌やダンスを披露したりして園生活を知ってもらっている。また、年長児は、地域の保育園、幼稚園と連携して園庭や公園で遊びを通して交流をしている。同じ施設内の中高生プラザや区民協働スペースの事業者と協働で催しを企画している。当園の立地している施設が地区の中核的な役割を担っているためである。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
「安心 & 安全を第一に保育・育成を実施します」を運営方針として大切にしている 本部及び園では、「大切なこどもの『いのち』を預かる」という精神の下、最優先の取り組みとして訓練を行っている。命を守るCPR訓練は最も大切なものとして、毎月実施している。その際に、子ども達にとって突発的に起こりうる色々な場面を想定したシナリオによって緊張感を持って実行している。また年度の初めに、職員全員で散歩コースの確認を行い、危険箇所の共有を行っている。さらに、防犯訓練では映像撮影を行い、その場での職員の行動や立ち位置を確認して振り返りを行っている。 災害・感染症の対応方法を定め、事故は記録・集計・分析によって再発防止に努めている 大規模災害や感染症の発生に直面した場合は、当園が港区の傘下で運営しているため、その対応などは区のガイドラインに準じて準備や備蓄、初動体制を決定している。また職員室内に緊急連絡フローを掲示して職員に周知している。保護者との引き渡し訓練や、職員の参集の条件の確認を行っている。避難や引き取りの手順を整え、施設や人員の被害状況を区及び本部に報告する仕組みが定められている。事故に関しては、その種類・状況等の記録を分析して、原因究明、再発防止に努めている。 個人情報保護について職員に周知し、保護者には重要事項として説明し、了解を得ている 園では、子どもの入園に際して様々な個人情報を扱っているため、書類の管理については「港区個人情報保護条例」に準じて行っている。個人情報保護も含めて「保育園業務マニュアル」を参考に全職員が継続的に学習している。また、文書類の保管方法及び電子データ類の格納方法は規定に従って運用している。保護者には、入園時に重要事項として、個人情報の取扱いについて説明して、了解を受けている。情報を外部の公共機関等に提供する際及びパンフレットに掲載する児童の写真等を使用する場合には保護者の同意を得ている。		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	職員の採用は本部が行い、園はその一環で応募者や見学者の面談等を行っている 当園は開園して 10年が経過しているが、欠員が生じる場合は本部と職員体制の情報を共有して充当する人材の補充を依頼している。本部では、ホームページとリンクした採用情報での人材募集案内や教育機関にパンフレットを送ったり、訪問したりして園の特色を説明している。また、園長は応募者や見学者と面談をして考え方と人材育成について説明して、就業後のミスマッチを防ぎ、定着への取り組みを行っている。また、当社に採用実績のある教育機関も含めて実習生の受け入れによって園の内容を知ってもらうよう機会を作っている。 本部はキャリアパスを示して、職員は目標をもって資質向上につなげている 本部は、キャリアパスを分かりやすく伝えるために、「人事制度ガイドブック」の主旨に沿った動画配信を行い、全職員が視聴して、現状で求められる役割を理解できるようにしている。職員は、年度ごとの目標を持ち、その達成度合いの自己査定を行っている。その成果・課題について、上司との面談に臨み、求められる役割や期待される能力についてのすり合わせを行い、個人別研修計画について話し合っている。園長は職員が四半期ごとに研修に対する評価、反省に対してアドバイス、指導を行い、資質向上につなげている。 「心身ともに健康」と「良好な人間関係」を目指して働く職場環境を整備している 有給休暇の取得状況、残業状況の把握等を行い、年1回のストレスチェックによって職員が心身共に健康で仕事に従事できる取り組みをしている。また、休暇を公平に取得できるように、年度初めに希望を聞き、事前に休暇を決めている。いっぽう、職場内の良好な人間関係をつくる事も、職場環境の充実と考え、クラス会議の中でコミュニケーションワークを実践している。また、昼の時間を活用して10分間の話し合いをしているクラスもある。このような取り組みの結果、職員のアンケートでは「良好な人間関係」がうかがわれる回答が多数見受けられた。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1) 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 【課題・目標】前年度からの重要課題として、「これからも『地域で選ばれる園』になるための取り組みを考える」を掲げた。 【理由・背景】この先も選ばれる園となるには園としての存在意義が必要であると感ずる。そのためには職員一人ひとりが保育の仕事を行うにあたり同じ方向性や愛情・想い・心を持ってほしいと考えたからである。 【取り組み】グループワーク(グループはA,B,C,D,Eの5つに分けてそれぞれの成り立ちを理解している)を通じて、それぞれのアイデアを出し合って当初の目的へのアプローチをねらい、以下の取り組みを行った。 ・職員同士を知る「他己紹介」 ・新卒者との関わりを大切にするための「アンケート収集」等をあげた。 【取り組みの結果と検証と反映】グループワークの実施によって個々のコミュニケーション力を高める効果は確認されたが、保育士一人ひとりの仕事に対する心情、意欲を更に育てていく育成が大切であることが今後の課題となった。その結果、職員一人ひとりの強みに焦点を当てた環境設定を考える必要性を認識した。それによって、子どもの最善の利益につながり、「選ばれる園」へつながるものと考えた。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 【講評】グループ討論を行うことによって、構成された任意のメンバーの様々な意見やその背景を知ることができたことは、特筆すべき効果となった。今後とも選ばれる園を続ける姿勢の本質に触れることができた。 【評語に関する検証】地域で今後も選ばれる園を目指した、園内グループ活動において、課題の抽出、実施、振り返り検証のプロセスを実行することができた。		
評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2) 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 【課題・目標】「安心した環境、安全管理が整った園運営にに取り組む」を重要課題として掲げ、目標として、子どもの安全と安心に関するリスクマネジメントを行い、危険予知能力を高めることを目指した。 【理由・背景】職員の連携と危険予知能力の向上及びアクシデントの再発防止をねらいとした。 【取り組みと結果の検証】 ・安全管理のため、アクシデントやケガの件数、発生状況や時間帯などを集計した内容を共有して、事故防止の意識の徹底を図った。 ・職員から安全管理の責任者を任命し、担当によるKYT(危険予知訓練)を職員会議に取り入れ、危険に気づく能力(気づきと感性)を高め、子どもの安全と安心に関する質の向上を目指すなどリスクマネジメントを行った。 取り組みの結果から、以下のような効果を得た。 ・アクシデント情報の共有によって、要因についての関心が高まった。 ・KYT訓練の結果、アクシデントが起こった際に職員間で検討会議がすぐに行えるようになった。 以上の結果から、原因究明への関心の高まりによって、結果として事故の防止につながる姿勢ができた。		

目標の設定と 取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 【講評】アクシデント情報の集計と、KYT訓練によって、重大事故発生ゼロを継続することに期待する。KYT訓練によるグループ討論によって、様々な視点を職員同士が理解しあったことは副次的な効果となった。また、社内掲示板の利用によって他園の状況も共有できるようになった。 【評語に関する検証】アクシデント情報の集計によって、多くの情報が得られ、最終的な重大事故ゼロへのプロセスが適切に運用されたものと考えられる。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ－6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ－1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4／4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当	
サブカテゴリ－1の講評			
見学は予約制とし、利用希望者一組ずつ丁寧な案内を行っている 園の情報をより丁寧に伝えるため、見学は原則一組ずつの受け入れとしている。利用希望者は事前予約の上で園を訪問し、案内は園長または副園長が行う。おおむね1時間ほど、十分な時間をかけて園の案内を行い、併せて質問等に答えている。園のアピールポイントのひとつに、オリジナルプログラムがある。外部講師を受け入れて、専門性の高い活動を行っている。プログラムは英語、体操、リトミックの三種類で、実際の活動内容を利用希望者に見てもらうなど、園の取り組みや魅力がしっかりと伝わるよう努めている。 地域の団体等が集まる会議には積極的に参加し、園の情報提供を行っている 地域の運営会議に参加しており、さまざまな人々と意見交換するとともに、園の活動や状況を伝えている。運営会議には、幼稚園、小学校、中学校、マンション等の自治会、各種団体などが参加しており、地域情報を共有することが出来る。園では、地域の子育て世帯向けに一時保育や「保育園であそぼう」などを開催しており、このような運営会議等を通じて、園の取り組みを伝えている。当園では口コミも大切に考えており、人とのつながりを通じて、園を知ってもらうことに力を注いでいる。 パンフレットやホームページ、動画など、各種媒体を活用して広報を行っている 園を案内するパンフレットがあり、見学に訪れた利用希望者に配布されている。また園内には日々の保育場面を映したスケッチと呼ばれる写真が飾られ、活動の様子を知ることが出来る。外国籍の保護者向けに作られた英語の説明文書もあり、見学時は英会話のできる職員が対応している。この他に、園のホームページやブログなども活用し、情報を提供している。保育園紹介動画も作成されており、利用希望者に閲覧してもらっている。紙媒体、ネットなど、さまざまな媒体を用いて、園情報を提供していることが確認できた。区の保育園入園案内にも用意されていた。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
入園面談シートを使い、子ども個々の状況や保護者の意向を多角的に聴き取りしている 新規に入園してくる子どもについて、保護者面談を実施し、個別の状況や保護者の意向・要望の聞き取りをしている。その際に、園で作成している「入園面談シート」を使い、必要な情報を漏れなく収集できるようにしている。入園面談シートは年齢別に内容が異なり、およそ16～20項目で構成されている。各項目では、食事、睡眠、排泄などの状況を細かく確認できるようになっており、併せて慣れ保育の希望も記録している。これに加えて、面談時の職員の気づきなども記載されており、詳細なアセスメントシートとして保育に活かされている。 卒園が近い子どもがスムーズに就学できるよう、近隣小学校と引継ぎを行っている 卒園する子どもたちが、スムーズに学校生活に移行できるよう、近隣小学校との密な連携を行っている。毎年2月には、園から近隣の小学校に出向き、入学予定の子どもについて、「保育所児童保育要録」を用いて引継ぎを実施している。園からは、園長、副園長、クラス担任が参加し、2時間ほどの十分な時間をかけて行う。特に、個別の支援が必要な子どもについては、どのような支援や環境調整が必要か、丁寧に伝えている。また、行事等を通じて子どもたちが小学校に行く機会も作られており、卒園に向けた手厚い支援が確認できた。 親子写真撮影コーナーを設けるなど、新入園の親子を温かく迎える体制がある 新規に入園した子どもたちが、園で安心して過ごすことが出来るよう、個々の状況に合わせて慣れ保育の期間を設定している。期間や保育時間などは、都度、保護者と相談しながら決めている。また、0歳児のクラスについては、初日にクラス懇談会を実施し、初めて園で過ごした子どもたちの様子を伝えるなど、保護者の不安軽減にも努めている。園内には、年長児が作成したフォトコーナーが設置されており、親子で記念写真の撮影ができるようにしている。新規入園の親子の不安に寄り添い、入園を歓迎する雰囲気づくりに努めている。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
全体的な計画のもと、各クラスが園の理念・方針に沿った保育計画を作成・実施している 全体的な計画のもと、年間指導計画、各クラスの月案などが作られている。各クラスが、園全体の方向性や考え方に合わせ、統一した動きができるよう、話し合いの場が複数設けられている。職員会議を始め、クラス会議、フリー会議、昼礼等を活用し、日々の活動の振り返りや意見交換が行われている。また3年前から、年間の活動計画を網羅した冊子を作成し、全職員に配布している。この冊子には、全体的な計画から年間指導計画、各クラスの月案に加え、行事や避難訓練、予算計画まで網羅され、各職員が園全体の動きを把握することができている。 必要な子どもに個別支援計画を作成し、子どもの困り感に沿った保育を実施している 配慮が必要な子どもに対し、毎月の個別支援計画を作成している。目標設定については、保護者とも話し合い、園と家庭とで足並みを揃えた支援が行えるよう気を配っている。また区の巡回指導で臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士のアドバイスを受けることもできる。個別支援には、専用のスペースを設け、園の保育士が1:1で関わっている。子どもの個別の状況に応じ、ヒモ通し、折り紙、トランポリンなどを通じた取り組みが行われていた。特別な支援が必要な子どもに関する研修にも参加し、関わり方を学ぶ機会も作っている。 個別面談や連絡ノート、送迎時の会話などを通じ、保護者ニーズの汲み上げを行っている 各クラスごとの個別面談があり、保護者の意向・要望の聞き取りをしている。また乳児クラスは連絡ノート、幼児クラスは送迎時の会話などで、園と家庭の状況を共有している。保護者に相談ごとがある時は、随時に話を聞くことも行っている。聞き取りした相談内容は記録に残し、必要に応じて保育サービスに反映している。園の活動計画は、おたよりや保育業務支援システムなどを通じて知ることが出来る。他にも、保育園カウンセラーが家族の問題、子育てに関する保護者の相談にのる体制がある。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
子どもの権利擁護にまつわるチェックリストを作成し、全職員が実施している 本部が2021年に作成した、「私たちの子ども一人ひとりを大切にしたい生活場面のチェックリスト&解説書」を全職員に配布し、子どもの人権尊重に関する意識付けを行っている。本書では、場面ごとに項目を分け、例えば登降園、日中の活動、食事、午睡などの際に、それぞれふさわしい保育を行っていたか、チェックできるようになっている。また一つひとつの場面ごとに、保育のあり方についての詳細な解説も添えられている。子どもの権利に関する法人の研修も行われており、子ども個々に寄り添う姿勢が伝わってきた。		
虐待防止や育児困難家庭への支援に関する研修参加、職員間での共有が行われている 児童虐待防止、育児困難家庭への支援等については、本部や外部の研修に参加して、対応方法を学んでいる。もしも虐待が疑われる子どもがいた場合は、園長・副園長を中心に見守りを行い、併せて記録も残している。必要に応じて園全体でも情報共有を行う。家庭の状況確認に努め、保護者から話を聴いたり、行政の担当課と連携するなどの対応をしている。区の児童虐待対応マニュアル、本部作成の虐待対応マニュアルなども整備され、慎重に対応していることが確認できた。		
子ども個々の価値観・多様性を尊重し、一人ひとりに寄り添う保育を心がけている 0歳児～5歳児まで、定員156名という、比較的大きな園であるが、子ども一人ひとりに目を注ぎ、多様な価値観を尊重した保育を心がけている。乳児クラスは担当者制保育を導入しており、担当の子どもと密に関わることで、安心感を醸し出している。園では一人ひとりの価値観・多様性を活かしつつ、集団での行動ができるよう、担当保育士が見守りをしている。個別性に配慮した保育は、環境づくりにも反映されており、一人の子の作品が、完成するまで大切に保管されている場面なども見ることが出来た。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
詳細にカテゴリ分けされたマニュアルを整備しており、いつでも閲覧ができる 業務マニュアルを始め、災害対策、個人情報保護、虐待対応ほか、詳細にカテゴリ分けされた支援マニュアルが網羅的に整備されている。これらは区のガイドラインに沿って、本部の委員会が作成・見直しをしている。年度初めには、特に新人職員向けに読み合わせの時間を取り、園長・副園長による研修も実施されている。提供しているサービスがマニュアルに沿ったものとなっているか、毎月、本部から内部監査も入っている。また区の指導監査も、年1回行われており、業務の質の維持・向上が図られていることが確認できた。 園独自マニュアルの改訂版作成に取り組んでおり、実現が期待される 本部の委員会が作成したマニュアルに加え、当園独自のマニュアルも作成されている。早番・遅番の仕事内容、散歩に出かける際の手順など、現場の業務に関する具体的な項目で構成されている。この園独自マニュアルは、職員の意見を反映し、三年前に作成された。今年度は、初めて見直しに取り掛かっており、職員から意見を募っているところである。併せて園長が面談で聞き取りもしている。次年度に向けてのより現状に即した改訂版を完成する予定であり、実現が期待される。 保護者の意見を吸い上げる仕組みがあり、必要に応じてサービスに反映している 園内にはご意見箱が設置され、また行事ごとに無記名のアンケート調査を実施するなど、保護者の意見を吸い上げる仕組みがある。この他にも、保護者会、クラス懇談会も実施されており、保育サービスについて意見交換が行われている。保護者から出た意見・要望は、必要に応じて保育サービスに反映し、質の向上につなげている。当園では業務のICT化を促進しており、おたより、家庭との連絡、欠席連絡などをアプリで配信、連絡できるようにした。オンライン化により、保護者からも「便利になった」との声が寄せられている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			☐ 非該当
評価項目1の講評				
子どもに関する情報を職員間で共有し、保育を行っている 入園面接は、授乳等の相談に適切に応じられるよう、0歳児担任やベテラン職員が担当し、ケースに応じて副園長も参加している。家庭での子育てで特に気を付けていることや職員に周知して欲しいことなど、時間をかけて丁寧に聞き取って把握している。日々の保育では、クラス毎に10分程の振り返りの時間を設け、子どもの様子を伝え合い、新たな気づきや配慮すべきことを把握した上で保育を行っている。毎日の昼礼では、感染症や怪我の発生状況、保護者からの意見等を共有している。更に担任主導のクラス会議、全体の職員会議でも確認している。 前月の姿から環境構成を考え、保育室内のコーナーの配置を工夫している 年度当初に設定したコーナーは、子どもの成長・発達、興味・関心に合わせ定期的に見直している。その月の姿を担任間で省察し、レイアウト図面を持ち寄り、職員によるプレゼンテーションを行い、副園長が助言している。子どもの動線を考え、保育室の奥側に静的遊びのコーナーを設け、落ち着ちついて遊び込めるよう配慮している。動的遊びのコーナーは、出入口を少し入った所に設置している。子どもが考え組み立てる構成遊び、指先の発達を促す微細遊びは、配置のバランスに気を配っている。職員が考案した手作り玩具も提供している。 SDGsの取り組みを通して文化や習慣の違いを知らせ、互いを尊重する心を育てている 10月のあきる野市への遠足では、事前学習として「港区あきる野市紹介動画」を5歳児が視聴している。なぜ木を植えるのか、森林破壊の意味や植林の理由を知り、当日はマッチを擦り直火を見たり、自然に触れる体験を実施している。ハロウィン行事や英語プログラムを通して外国の文化に触れている。絵本を活用し、髪や肌の色など世界にはいろいろな人がいること、日本の水と外国の水の違い、飢餓について知らせている。SDGsの取り組みを充実させて文化や習慣の違いを伝え、人に対する思いやりや互いを尊重する心を育てている。				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
受け入れ室での視診を一人ずつ行い、子どもの健康状態を確認している 0～2歳児室は、廊下から保育室に入る手前に「受け入れ室」が設置されている。感染症予防の観点から、登園時一人ずつ順に受け入れ室での視診を行い、体温だけでなく鼻水や咳、排便、皮膚の状態を聞き取り、視診記録に記入している。HOカードや連絡ノートの記載事項を確認するとともに、首から上(顔面、頭部)と手のまわり(腕)の傷の有無に気を配り、保護者に確認し職員間で共有している。保育業務マニュアルに記載された「登園時・降園時の対応」に即して申し送り表を活用し、降園時には一日の様子を保護者に伝えている。 担当制の保育を実施し成長に応じて働きかけ、基本的な生活が身につくよう援助している 食事、排泄、睡眠、着脱等の生活全般は、担当制の保育を導入し、決まった職員が毎日援助することで、少しの変化や成長に気付けるようにしている。一人ひとりの発達に応じた言葉かけを心がけ、子どもが基本的な生活習慣を獲得することを支えている。食事は0～2歳児まで担当制の保育を継続し、少人数で落ち着いて食べることを大切にしている。3歳児はランチスペースを使用し、食事と遊びの場を分けている。子どもが空間の意味づけを理解し、室内のどこで何をするかを理解することで、自分から行動をとりやすくなるよう環境を工夫している。 個々の成長発達に合わせて、休息や睡眠の時間を確保している 0歳児は個々のリズムを把握し、子どものタイミングに合わせて必要な睡眠を確保している。1歳児は眠くない子は無理強いせず、徐々に入眠できるよう働きかけ、早く目覚めた子には絵本や静かな遊びを提供している。2歳児以上はコートを着用し、3歳児は眠るスペースと遊ぶスペースを分けている。4歳児はホールでゆったりと午睡をとっている。5歳児は基本的には午睡時間を設けず、習い事など保護者の要望に応じて1時間程度の仮眠をとり、午後の時間を有効に活用し、5歳児ならではの活動(SDGsタイム、事前学習等)を行っている。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
子どもファーストの考えを持ち、運動遊びや作ったもので遊び込む経験を大切にしている 園独自に「一日運動DAY」の活動案を作成し、子どもの体幹を鍛えるため毎月のテーマを設けて取り組んでいる。筋力、平衡性、柔軟性、瞬発力、敏捷性を養うことにつながる運動遊びを職員が考え実践している。手押し車、片足立ち、ワニの腕立て、うしがえるジャンプ、キッズヨガ、幅跳び、走る活動を通して運動遊びが好きになり、転倒時に咄嗟に体を支えるなど安全力が高まるよう取り組んでいる。遊びの道具や環境を整え、子ども自身が作った玩具で遊び込むことで、仕組みや面白さを知り、主活動に主体的に関われるよう援助している。 戸外遊びを通して子どもが気付いたことを表現活動や園行事に結び付けている 天候に恵まれた日は毎日のように散歩に出かけている。散歩先で見た蝶やアジサイは絵本や図鑑で調べて理解を深めている。これらの体験を製作やダンスなどの表現活動や園行事につなげている。運動会では、自分の星座のフラッグを作って入場し、大道具に子どもの作品(カタツムリ、ひまわり)を飾り、ストーリー性のある競技を行っている。生活発表会では、子ども達が作ったマラカスを使って演奏し、ダンスを披露している。散歩中に発見した標識や店舗の看板をきっかけに文字に関心を持ち、自ら書いてみたりと豊かに展開している。 主体的に集団活動に関わり、規範意識が育つよう、ルールのある遊びを取り入れている 鬼ごっこのバリエーションを増やし(バナナ鬼、水鬼等)、ルールのある遊びを意図的に取り入れている。劇の配役を決める話し合いでは、自分の思いが通らないときでも気持ちを調整する力がつくよう、職員は「一緒にやろう」と声をかけ援助している。園内の廊下に白い矢印を貼り、歩く方向を決め、散歩では交通ルールを知らせている。「一日運動DAY」の活動を通して、順番を守ることや待つことの大切さを教えている。安全に楽しむためのルールを子どもに分かりやすく伝え、決まりを守る必要性を理解し、規範意識を育てている。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
子どもの発想を引き出し、プロセスを重視した行事を行っている 園行事を行う際は、職員提案によるテーマを設け計画的に実施している。見てもらうことではなくプロセスを重視し、子どもの発想を引き出し、進んで取り組むことを大切にしている。今年度は泡をテーマに、色付きの泡、泡スライム、泡のプール(バブルプール)、シャボン玉遊び、シャボン玉アートなど様々に展開している。夏祭りでは宇宙をテーマに、球体の発泡スチロールに色を付け、地球に見立てた神輿を完成させている。これらの取り組みは、子どもの意見や提案から実現されており、子ども主体の意欲が高まる活動となっている。 達成感 満足感を得られるよう、自ら調べたり意見を述べる場を設けている 日常の保育を行事に取り入れ、達成感や満足感を感じる経験を重ねられるよう工夫している。少人数のグループを編成し、協力し合える場を設け、子ども同士で意見交換をしている。5歳児の活動「わくわくトレジャー」では、天体観測や宇宙に関心を持ち「地球の神輿作り」に発展している。子ども達の調べ学習から惑星の存在を知り、「地球の神輿」にも惑星を取り付けている。時には互いの意見がぶつかり合うような場面があっても、トラブルを乗り越え、やり遂げる喜びを味わえるよう、子どもに対する目と心を離さず見守り援助している。 保護者の理解や協力を得るために、子ども達の取り組みの様子を丁寧に知らせている 年度当初に年間行事予定表を保護者に配付し、行事の主旨を伝えている。行事の終了後にアンケートを実施し、楽しかったことや印象に残ったことなど、集約結果を保育業務支援システムで配信し、次年度につなげている。運動会の取り組みでは、跳び箱や鉄棒に挑戦する姿や子どもの意欲を丁寧に知らせている。例えば、跳び箱の5段を飛びたいと希望する子どもの保護者に、当日の成功に関わらずチャレンジする気持ちを大切にしたい旨を伝えている。目標に向かって努力する姿をクラスだよりに掲載し、保育業務支援システムやブログで配信している。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもの心情に配慮し、職員の関わりや環境に配慮している 22時までの延長保育を職員のシフト制により実施している。乳児と幼児に分けて保育し、人数が減ってから合同保育の形態をとり、補食は18時15分、夕食は18時50分に提供している。0歳児は完了食以降の子どもを受け入れ、おんぶや抱っこなどのスキンシップを図っている。1～2歳児にとっては、自分の部屋や隣の保育室となる1歳児室を使用し、安心して過ごせるよう配慮している。友達が徐々に帰って寂しくならないよう、子どもとの個別対応に努め、絵本コーナーで気分を変えたり、専用の玩具を用意するなど工夫している。 保護者に子どもの様子を伝える役割を担う職員を配置し、伝達漏れに留意している 異年齢合同で過ごす時間には、5歳児が0歳児に優しく関わる姿が見られる。日中の園生活でも、5歳児が0歳児の保育室に遊びに来るなど思いやりの心が育っている。補食や夕食の食べ具合や子どもの様子を保護者に伝える担当者(ドア番)を設け、保育形態が変化する時間帯の対応を細やかに行っている。多くの職員がシフト勤務で延長保育に携わり、当番職員から担任に報告し、翌日の昼礼でも子どもに関する情報を全職員で共有している。子ども同士のトラブルについては、状況を詳しく把握している担当が保護者に直接電話連絡するなど対応している。			

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		☐ 非該当
		☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
評価項目6の講評				
子どもが安心して食べることができる担当制による介助やアレルギー対応を徹底している 0～1歳児は担当制による介助を行い、少人数の子どもを毎日決まった職員が援助することで、楽しく落ち着いた雰囲気となっている。子どもの歯の生え具合や口腔内の怪我に配慮し刻み具合を調整している。1歳児と3歳児はランチスペースを設け食事と遊びの空間を分けており、個々の生活リズムに合わせた活動を保障している。宗教食や食物アレルギーに対応し、代替食や除去食を提供している。マニュアルに従い、アレルギー献立は保護者が毎月確認しサインをもらい、トレイや食器の色を別にし、誤配・誤食を防ぐためのチェックを徹底している。 子どもや保護者の意見を把握し、行事食や郷土料理などの食文化を知らせている 港区の献立を基に安心・安全な給食を提供している。給食会議にて各クラスの喫食状況を報告したり、行事食、日本の郷土料理、世界の料理等の提供について話し合っている。食育の一環として「三食表」を使い、赤は血や肉を作る、黄色はエネルギー源、緑は体のバランスを整えることを栄養士が伝えている。「こんな給食を作って欲しい」、「おいしかった」など子どもの声に耳を傾け、子どもの偏食に悩む保護者の相談に応じ、野菜を細かく刻んで揚げた「落とし揚げ」をはじめ、野菜を摂取できるメニューを紹介している。 年齢別に担当栄養士を配置し、担任と連携した食育活動に取り組んでいる 当園は2～5歳児に各クラス1名の担当栄養士を配置しており、担任と連携して食育活動に取り組んでいる。食育計画を立案し、例として年間テーマ(科学)にちなんだサイエンススイーツを栄養士と担任で調べて「色が変わるババロア」を提供している。とうもろこしやそら豆の皮むきを通して給食の食材に触れ、子どもの食に対する興味・関心を育てている。子どもと調理スタッフとのコミュニケーションを可視化した「給食室へのお手紙」を玄関ホールに掲示している。展示食の付近には、自由に持ち帰れる「たかはま保育園のレシピ」を設置している。				
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		☐ 非該当
評価項目7の講評				
看護師と保育士が連携し、保健指導を積極的に行っている 看護師による正しいマスクのかけ方など保健指導を積極的行い、子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう働きかけている。手洗い指導では、楽しく歌いながら手を洗う順番を覚え、きれいに洗える「手洗い歌」を取り入れ、その絵を手洗い場に掲示している。歯科健診の前には、教材媒体や絵本「虫歯の正体」を活用し、虫歯にならないためにどうすればよいかを分かりやすく伝えている。5歳児は性差やプライベートパーツについて、絵本「いいタッチ、悪いタッチ」を使って知らせ、自分も相手も共に体と心を大切にすることを伝えている。 専門機関との連携や系列園との連携を図り、連絡体制を整えている 日頃から嘱託医との連携を図り、怪我、感染症、アクシデントについて、いつでも相談できる関係を維持している。系列園の看護師による保健担当者会を定期的に開催し、各園の怪我や感染症の発症状況、対策に関する情報を共有し意見交換している。また、国や自治体からの周知事項を確認している。成長の過程で子どもの発達に気になる様子が見受けられる場合は、巡回指導を通して専門家からの助言を受けて対応し、保育に反映させている。更に心配なことがあれば、随時臨床心理士に相談できるよう、専門機関との連絡体制を整えている。 保護者と連携して子どもの健康維持促進に取り組んでいる 乳幼児突然死症候群(SIDS)について、入園前の説明会で詳しく知らせている。保護者向けに資料を配付し、0歳児は5分おき、1～2歳児は10分おき、3～5歳児は30分おきに呼吸を確認していることなど、園での取り組みを説明している。園内に感染症が発症した場合は、速やかに感染症掲示板にて保護者に周知している。内科健診・歯科健診を行う際は、事前に保護者アンケートを実施し、医師に相談したい内容を把握し、その結果を保護者に報告している。				

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当	
評価	標準項目																			
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当																		
	評価項目8の講評																			
	様々な保育サービスを提供し、保護者の就労や個別の事情等のニーズに対応している 7時15分からの朝保育、18時15分までの夕保育、22時までの延長保育を実施している。急な残業にも柔軟に対応し、延長保育を利用している保護者の意向に応じて補食や夕食を提供している。地域の拠点施設として一時保育、緊急一時保育、休日保育、年末保育を実施し、保護者の就労を支援するとともに多様なニーズに対応している。年2回の個人面談を実施し、個別の事情にも配慮している。親子参加の行事は参加しやすい土曜日に開催し、保護者同士が交流できる機会を設け、我が子の姿を伝え合い、共通の悩みを解決する糸口を作っている。 子どもの様子を具体的に伝え、発達の姿を共有し、保護者との共通認識を図っている 毎日の保護者との会話では「元気です」、「よく遊んでいました」だけに留まらないよう気を配り、友達の名前をあげて遊びの様子やエピソードを具体的に伝えるよう努めている。日々の取り組みを写真で知らせる「スケッチブック」を玄関ホールに掲示し、クラス別の活動をその日のうちに全クラスが掲示している。また、過去のページも見ることができるよう工夫し配置している。玄関ホールには、隠れ家的な落ち着ける絵本コーナーが常設されており、感染症対策として15分の利用制限を設けながらも、親子のふれあいの場を提供している。 保育の意図を保護者に伝え、連続した援助を行い、養育力向上につなげている 園と家庭との連続性を考え、週案を廊下に掲示し、散歩の出発時間に遅れないよう保育活動への協力を求めている。当日の活動の写真にコメントを添えて「スケッチブック」に掲載し、迎え時に親子で見てもらい会話も弾んでいる。その際、他クラスの「スケッチブック」を見て、友達との関わりや育ちの見通しを持ち、安心して子育てができるよう援助している。園での学びを家庭へつなげるきっかけとして、SDGsマークの付いている食品を家庭で子どもと一緒に調べてもらい「お子さんに聞いてくださいね」と主活動の意図を保護者に伝えている。																			
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当										
評価	標準項目																			
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当																		
	評価項目9の講評																			
	行事や日常の活動に地域との連携や交流を取り入れている 図書館職員との連携のもとに、3～5歳児が港南図書館に行き、年齢に合った絵本や紙芝居を見せてもらう「おはなし会」を毎月行っている。勤労感謝の日には、地域の施設(当園を含む複合施設のビル管理会社、高齢者施設、図書館)を子ども達が訪問し、感謝の気持ちを伝えている。5歳児は地域のイベント「品川ハロウィン」に参加し、地域の方や近隣保育園との交流を体験している。夏の打ち水大作戦はコロナの影響により中止となったが、冬の雪遊びには、2～5歳児が近隣公園で冬を感じられる企画に参加し、季節感を味わっている。 保育園、学童、小学校、中学校が隣接する特色を活かし、交流を深めている 当園、中高生プラザ、施設管理者が所属する「さんぽーと港南複合施設打合せ(さんぽーと港南運営連絡会)」を定期的に行い、さんぽーと港南の建物の開館を祝う「さんぽーとまつり」を共催している。港南子ども中高生プラザと協力し、ブースでの催しに地域の方を招き、入園前の親子、学童期の子ども、中高生と幅広く交流している。当園を卒園した子どもは、同じ建物内の学童クラブに通所しており、毎日声をかけ合っている。中学生になった卒園児が職業体験で訪れるなど、保育園・学童・小学校・中学校が隣接する立地を活かし交流を深めている。																			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	園独自に「たかはま保育園活動計画」を立案し、年間のテーマを設け保育を展開している	
内容①	園の全体的な計画、年間保育計画、月間指導計画とは別に年齢別のテーマを設け、より具体的な実践内容と活動計画を独自に作成している。これらを指導計画と併せて冊子に綴り、全職員に配付している。担任間で話し合った今年度のテーマは、2歳児は春夏秋冬、3歳児は四季、4歳児は表現、5歳児はサイエンスと決まり、計画的に進めている。園の畑で野菜を栽培して収穫までの過程を観察したり、季節毎の制作や戸外活動など幅広く展開している。段ボールの空気砲作りでは好奇心や探求心を育て、仕組みを理解するなど豊かな学びとなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	子ども一人ひとりを尊重し権利を守るためのチェックリストを作成し職員に配布している	
内容②	本部が2021年に作成した、「私たちの子ども一人ひとりを大切に生活場面のチェックリスト&解説書」という文書があり、全職員に配布されている。これは、子ども一人ひとりを尊重し、子どもの人権に配慮した保育を行っていたか確認するためのチェックリストである。食事、排泄、午睡ほか、保育の各場面で適切な対応が出来ていたか、このチェックリストを用いて、職員が個々に振り返りを行っている。単なるチェックリストのみならず、詳細な解説も添えられており、日ごろの保育を見つめ直す、良い機会となっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	アクシデント報告の集計・分析及び、本部からの事例配信を参考にして予防に努めている	
内容③	アクシデントが発生した際には、直ちに所定の報告を行い、クラスで検討会議を行っている。その際に、定められたフォーマットに従って、報告書を作成して、本部にも上げて、掲示板機能によって、各園には配信されて、全社で共有している。年間の記録は看護師が集計して、種別、クラス、時間、場所等を集計し傾向、分析に使用して今後の再発防止に役立てている。いっぽう、本部からのアクシデント速報配信や事例配信から、当園にあてはまる事例を検討して、同様なアクシデントの予防に努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	複合施設のよさを活かした地域交流に積極的に取り組み、子ども達が地域と交流できる機会を多く持ち、経験の幅を広げている
	内容	「さんぽー」とは、たかはま保育園、港南子ども中高生プラザ、施設管理者の運営会社の3つのグループを指している。複合施設のよさを活かした地域交流「プラっと広場」では、毎月のテーマを設け、しゃぼん玉、色水、パラバルーン、落ち葉の制作など様々に展開している。今年度は日頃からの交流に加え、10周年記念のイベント「さんぽーと祭り」を共催している。港南子ども中高生プラザの施設（体育館、集会室、創作室、協働スペース）と、園の施設（遊戯室）を開放し、乳幼児や小学生が交流を深め、園の特色を活かした実践となっている。
2	タイトル	特別な配慮が必要な子どもには個別支援計画を作成し、外部機関の助言や家庭のニーズを反映した保育を行う体制がある
	内容	子どもが園や家庭の生活上で困りごとがあり、特別な配慮が必要となった場合、可能な限り個別のニーズに沿った支援を行うよう努めている。必要があれば保育士が1:1で対応することも行う。個別支援計画も作成している。区から巡回してくる心理士、言語聴覚士、作業療法士や医師など、外部の専門職者に相談を行うこともできる。外部の専門職者の助言は個別支援計画にも反映し、保育に活かしている。園や家庭、外部の専門職と連携し、個別具体的に対応する体制が確認できた。
3	タイトル	グループワークを伴う園内研修では、テーマに向けた取り組みによってメンバー間の一体感が育まれている
	内容	職員の資質向上に向けて、さまざまな研修プログラムを用意し、職員への研修機会を設けている。等級別・園内・昼・自主・外部研修からなっている。とくに、グループワークを伴う園内研修では、予め設定されたテーマから、どのようなプロセスでアプローチするかをグループとしての取り組みとし、方向性を決めている。各グループの構成は日頃接していないメンバーも含まれ、討議を重ねるに従ってそれぞれへの理解が増す事と、一つの方向を目指す一体感が育まれている。研修による技術力と、組織力の向上へのねらいを持った取り組みとなっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	コロナ禍でも実施可能な当番活動を工夫し、給食提供時の献立紹介を子どもに委ねることで食育活動への更なる充実が期待される
	内容	年齢別に担当栄養士を配置し、食育計画をもとに毎月の会議にて検討し、園全体での共通理解を図っている。連絡ノートやスケッチブック、各種のおたより、園ブログを通じて家庭とも連携している。訪問調査当日はランチスペースやテラスで給食を食べる子どもの姿があり、食事環境の工夫も確認できた。今後に向けて、職員が行っているメニューの紹介等は、子ども自身の言葉で伝えることで一層の興味が惹かれると思われる。コロナ禍でもできる当番活動を工夫し、食材・メニュー・味に関わる会話など、園が目指す「豊かな食」への充実が期待される。
2	タイトル	本部作成のマニュアルに加えて園でも独自に手順書を作成しているが、今年度はさらに職員の気づきを反映した改訂版作成に取り組んでいる
	内容	本部が業務マニュアルを作成している。マニュアルは保育に関することから、災害対策、個人情報保護、新型コロナを含む感染症対策ほか、網羅的に整備されている。一方で、園独自の業務に関する手順書も必要という声を受け、3年前に職員で話し合って作成した。早番・遅番の仕事、近隣の公園に散歩に行く際の準備等、保育現場に即した内容となっている。今年度はこの手順書の見直しに着手し、職員からの意見を募っているところである。次年度に向け、改訂版の完成が期待される。
3	タイトル	区の策定する緊急時に対する行動指針に従って、園独自の対応策を職員全員で話し合い、BCP計画に結び付けていくことを期待する
	内容	大規模な災害やその影響によって業務の継続に支障がある場合を想定して港区では保育施設を対象にして、「災害対応マニュアル」「緊急時対応マニュアル」に従って行動できるようにしている。これらの指針のもと、当園の地域性を盛り込んだ独自の対策、行動フロー、訓練方法の作成を計画している。とくに、初動体制における被害状況の把握や連絡網の構築や適切な備蓄計画、職員の参集の条件等を総合的に職員全員で話し合い、当園独自の事業継続計画(BCP)に結び付けていくことを期待する。